



## 世界で最も貧しい大統領が語るもの

校長 高橋 実

本校でもインフルエンザが流行り、ある日の朝会を放送で行うことにしました。テレビにアップで映りますので本の紹介をしようと思い立ちました。先月の学校だよりでは、杉原千畝さん、中村哲医師など人間として素晴らしい人を紹介しました。どのような分野でもいいのですが、目指したくなる人、憧れを抱ける人など素晴らしい人と出会うことが、子どもの成長には必要なことだと思ったからです。それは、実際に出会わなくても、本で出会うことができます。本の中で会話をすることができます。素晴らしい人と言っても、必ずしも完璧な人というわけではありません。人間として当然もっている弱みや悩みもあるでしょうし、時には過ちを犯してしまうことだってあります。それでも、何かを成しえた人と（本でも良いので）出会い、会話することによって、自分自身に問うことも多くなり自分の考えが深くなっていくと思うのです。

その日の朝会では、世界でもっとも貧しい大統領と言われるホセ・ムヒカさんの本を紹介しました。図書館に子ども向けのムヒカさんの本が何種類かあるのを知っていたからです。ホセ・ムヒカさんは、ウルグアイの大統領で、2012年にリオ・デ・ジャネイロで開催された国連会議でのスピーチが世界中の人々を感動させました。無難な意見ばかりの他の大統領と異なり、思っていることをまっすぐに言葉にしている、そんな彼のひと言ひと言が多くの人々の心に突き刺さったのではないかと思います。

大統領ホセ・ムヒカは問います。「持続可能な発展と世界の貧困をなくすこと。それは現在の裕福な国々の発展と消費モデルを真似することなのでしょうか。」そしてさらに問います。「西洋の富裕社会がもつ傲慢な消費を、世界の70億～80億の人ができると思えますか。そんな原料がこの地球にあるのでしょうか。息をするための酸素がどのくらい残るのでしょうか。」そしてスピーチの最後にこう語りました。「発展は幸福を阻害するものであってはいけません。愛を育むこと、人間関係を築くこと、子どもを育てること、そして必要最低限の物を持つこと。」そして「人類の幸福こそが環境の一番大切な要素であることを覚えておかななくてはなりません。」

言われてみれば、ムヒカさんの言っていることはごく当たり前のことです。いったん裕福な暮らしをすると貧しい生活に戻ることを人々は恐れます。「貧しさ」について、ムヒカさんは昔の賢明な人々の言葉を引いて語ります。「貧乏な人とは、少ししか物を持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ。」ムヒカさんは、大統領の時も質素な暮らしぶり、世界で最も貧しい大統領と呼ばれるようになりました。しかし、本当の意味では貧しいのではなく、むしろ豊かなのかもしれない。

彼のスピーチを読み返し、他の彼のスピーチも読み、彼のことをもっと知ることによって、彼の負けず嫌いで絶対に怯まない精神、そして信念を持ったその生き様に勇気づけられるのは、おそらく私だけではないでしょう。